

・正義を通じて、アリストテレスは分配について「正義」の側面から考察したのだと分かりました。これまでアリストテレスを正面から取り上げていた経済学の授業はなかったもので、とても興味深く感じました。また、古代ギリシアでは既に「貨幣」が誕生していたと記憶していますが、アリストテレスは貨幣についてどのような考え方をしていたのかという点について疑問に思いました。等価交換をする手段としては認めていたのでしょうか。世界史の知識が曖昧なので時代的・地理的な錯誤がありましたら申し訳ございません。

・大音量でも少し音声小さいので、可能であればもう少し音声を大きくしていただけるとより視聴しやすいです。

・学部で経済学の講義を受けておらずこれが初学なのですが、分かりやすくありがたいです

・説明が大変わかりやすく、進行の早さも調度よいです。

・授業は面白いと思うので、よろしければ授業動画のアーカイブを残していただけたらなあ、と思います。

・きいたことのない分野の話だったので興味深く聞いた。

・少し音量が小さいと感じた。"

・ネット環境が悪いときがあると、解像度が低くなってしまい、文字が見えなくなってしまう。

・ピグーの限界効用理論における効用関数の傾きを考える対象によって差をつければよりリアリティが生まれると感じました。例えば、富裕層の効用関数の傾きと貧困層の効用関数の傾きに違いを出して論じるといったことです。ピグーはこのように考えなかったのでしょうか。

・ピグーの厚生経済学は社会主義的な平等論ではなく、経済効率を考えた上での議論であることが興味深く思った。

・ピグーの前提の部分で「効用の大きさは可測」と言ったときの可測は測度論的な意味の **measurable** でしょうか。経済学で測度論が出てくるという話は聞いたことがありますがこういう部分で引き合いに出されるのかなと思った次第です。

・とても分かりやすいし、リアルタイムなのできちんと毎回参加できて自己肯定感も高まっている。ありがたい。

・本日の授業ありがとうございました。ケインズ理論について興味があります。特にケインズ理論と持ち家政策について詳しい書籍などありましたら、次回の授業で紹介していただけないでしょうか。

・アリストテレスの分配論では経済的なもの以外が含まれており問題があるとのことでしたが、自分は初期条件における分配にも問題があるのではないかと思いました。強力な権力がある者または組織に統治されている集団ならば初期条件を揃えられますがそれ以外では難しい上に、古代ギリシアの民主政治上でも難しいと考えた。

労働価値説ですがマルクスは何を参考にし作り上げたのかが気になりました。

・時系列順で理論の進歩がわかりやすく示されていてとても面白く拝聴していた。

・結びに各テーマにおける最新の理論を軽く紹介してもらえるとより興味を惹かれると感

じた。

- ・講義で取り扱うテーマ以外に、近年発展しているテーマと参考書があれば教えて欲しい。
- ・他の授業と迷っていて、初回の授業を聞き逃してしまったので、オリエンテーションの内容だけでも動画をアップデートして頂けると嬉しいです。
- ・他の授業と迷っていて、初回の授業を聞き逃してしまったので、オリエンテーションの内容だけでも動画をアップデートして頂けると嬉しいです。
- ・とても分かりやすいです。ありがとうございます！
- ・話が分かりやすかった。文字も大きくて見やすかったのでストレスなく受講できた
- ・アリストテレスの時代から順を追って分配の基準を学んだことで、経済学が当時の時代を反映しながら発展してきたことが分かり、おもしろかったです。経済学には様々な論争がありますが、どれが正しくて、正しくないのかということが重要なのではなく、多面から分析、考察することが大切なのだと思います。
- ・アリストテレスの理論への批判で問題になってから、価値の測定・比較の基準というのはずっと正解がわからないのかと思うと、やはり違うアプローチの方がふさわしく、そのアプローチとして、現実により即している序数的効用論に基づいた分配のあり方を考えることはいいと思う。適用範囲が限定的でも、もう個別の範囲でそれぞれ考えるしかないのではないか。
- ・面白かった
- ・経済学の歴史について順を追いながらわかりやすく解説されているので勉強になります。
- ・楽しみながら受講しています。
- ・10月16日の講義で扱ったホッブズの抵抗権について、高校の時に抵抗権を強調したのはロックだと習ったと記憶していますが、両者のいう抵抗権の中身は異なるものなのでしょうか。
- ・教科書では「抵抗権と自己の身体の安全を維持する権利」が並列されていますが、身体安全維持権の派生として抵抗権があるのではないかと考えました。
- ・ホッブズの抵抗権とロックの抵抗権の違いは、前者が身体保護を目的としていて、後者は自然権の保護を目的としている、という解釈は合っていますか。"
- ・転形問題について興味があるのでおすすめの書籍を紹介していただきたいです。
- ・パソコン側の音量を調節したのですが音量が小さく、聞き取りづらい場面が多いです  
投下労働価値説についてですが、労働やその効率化のために導入された資本の分を回収してると思えば地代や利潤も真っ当な差し引きだと思うのですが、そのあたりマルクスはどう考えるのでしょうか。
- ・価値によって価格が定まるのは当然のこととして受け入れていたので、それをいかにして導き出せるのか？という観点（転形問題）は自分にとって新鮮であり難しい問いに感じた。
- ・スミスは重農主義の考え方を体系化したとのことでしたが具体的にどの部分を採用し棄却したのかが知りたいです。さらにはスミスはフランスに行った際に重農主義者と交流を持ったと思うのですが、それ以前の思想とフランスに行った後の思想ではどれほど変わったのかも気になります。
- ・パラダイムシフトにより労働価値説が捨て置かれることになったが、そこに価値判断が

おかれることに驚いた。

・ただの感想ですが、「労働価値説は『どうでもよくなる』」のくだりで、経済学も社会情勢の影響をもろに受けるし、現金というか、科学的でないというか、そういう部分があるかもなあと思いました。ただ、理論ではなく（実際に起っている）現象の分析が先行していると捉えることも出来るし、そのあたりが難しいなあと思いました。

・供給曲線が右上がりな理由として利益が上がると、生産量を増加させるためと学びました。理論上はあっているとは思いますが、どうしても現代では内部留保などの問題が考慮されていると感じているのでそこに即したグラフの理論は提唱されていないのか気になりました。

・投下労働価値説については少し知っていたが、その経緯や支配労働価値説は聞いたことがなかったので面白かった。

・収穫逓増の考えの下での需要・供給曲線の2つの調整の欠点についての解説が非常に興味深かったです。また、普段の買い物でも、品物の価値と Price について考えるようになりました。

・日常的に自炊をする僕の場合は、「最終的に食べられる料理」の価値で食品の購入を判断しています。勿論価格も大事ですが、最終的な判断材料は商品の価格ではないんだと実感します。